

学校評価報告書

学校名 深谷市立岡部中学校
校長名 清水正之



1 学校評価のねらい（学校としての受け止め）

- (1) 本校教育活動の質的向上
- (2) 組織的・継続的で円滑、効果的な学校運営の改善
- (3) 学校運営に関する関係者の参画意識向上
- (4) 学校・家庭・地域の連携協力による学校づくり

2 評価の方法（自己評価・学校関係者評価・第三者評価の種別、回数、方法等）

- (1) 職員による評価（12月・年1回、アンケート）
- (2) 保護者による評価（12月・年1回、アンケート）
- (3) 生徒による評価（12月・年1回、アンケート）

3 評価の結果

(1) 主な指標の変化

保護者による評価では

- ・「子ども達が安心して学べる場所作りに努めている」が93.9%から96.2%
- ・「いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる」が84.2%から86.5%
- ・「安全な登下校と交通安全についてよく指導している」が88.1%から91.6%

生徒による評価では

- ・「学校の授業が分かる」が84.9%から87.3%
- ・「岡部中学校が好きだ」が91.0%から89.0%
- ・「授業中に発言や発表をしている」が55.6%から52.1%

(2) 学校教育目標の具現化に向けた指標

- ・「授業でわからないことがあるときは先生に聞く」が65.3%、「授業中に発言や発表をしている」が52.1%、「宿題の他にも家庭で自主学習をしている」が75.8%等、生徒評価では学力について課題のある評価となっている。
- ・規律や人間関係の面では生徒評価及び保護者評価でも概ね90%以上の評価となっている。
- ・教職員の評価では、全教職員共通理解のもと、「すべての子どものための教育への具体的な取組が実践されている」、「深谷市の教育を支える教育風土を重視し、具体的な取組が実践されている」、「学校教育目標の具現化に向け、校長を中心に全教職員の創意工夫を生かし、その実現に努めている」において、全て肯定的な評価となった。

(3) 学校研究課題の具現化に向けた指標

- ・本年度の学校研究課題である「新しい時代と社会に開かれた教育課程～主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善～」に関連して、「生徒の実態を踏まえ、個に応じた指導を行うなど、指導方法や指導形態の工夫・改善が行われている」、「生

徒の学習意欲を考慮した指導方法の工夫・改善が行われている」において、全て肯定的な評価となった。

4 次年度へ向けての展望

生徒評価及び保護者評価において、規律面や人間関係、基本的な生活習慣に係る評価項目は、概ねほとんどの教科項目で90%以上の高い評価となっている。学習に関する生徒の評価項目においても、「学校の授業が分かる」は87.3%、「先生はわかりやすく教えてくれる」は93.0%は高い評価となっているが、「授業でわからないことがあるときは先生に聞く」や「授業中に発言や発表をしている」などの評価項目は改善が必要である。

次年度へ向けて、さらに学校研究課題を中心として授業改善を図り、生徒が授業の中で発言や発表をする機会を意図的に増やし、主体的・対話的で深い学びを実現することができるよう、教員が自ら作成したアンケートで行う生徒による授業評価の活用を推進し、生徒の学びを支援していく。

教職員評価で昨年度課題が見受けられた「図書室の利用」については本年度も評価として課題があるが、バーコードの導入などを行い、貸出冊数の増加や蔵書の増加に努め、授業における活用などを図り改善していく。

「安全教育」では、給食調理場建設に伴う環境整備や、自転車の交通事故対策として実施したスケアードストレイト講座の実施により、本年は大きな改善を図ることができ、今後、一層力を入れて指導していく。